



北スラウェシ 日本人会

NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

1999年4月

タルシウス

第4号

TARSIUS



北スラウェシ出身の国家英雄とマナドに流刑された英雄たち

北スラウェシ日本人会会報 《タルシウス 第4号》

目 次

- ◇ 在ウヰン・パダン 日本国総領事館 松田総領事殿 並びに
在インドネシア 日本国総領事館 川上特命全権大使殿の
北スラウェシご訪問
- 北スラウェシ日本人会 会長 前田 良昭 2
- ◇ 在インドネシア在留邦人安全対策懇談会 辻田 武司 4
- ◇ 北スラウェシ出身の国家英雄 川井 雄二 9
- ◇ マナドに流刑された英雄たち 川井 雄二 15
- ◇ ビトンでの鯉節製造の歴史について 川口 博康 18
- ◇ 高校日本語教育支援 家田 章子 24
- ◇ スラウェシ島の歴史と民族 庵 波人 27
- ◇ 国際結婚 完全マニュアル Part II 押川 裕一 30
- ◇ メナドの親日家 ソンピさん 青木 次郎 33
- ◇ インドネシアのまぐろ延縄漁業 長崎 節夫 34
- ◇ MINANGA-RAFTING (川下り) 川口 博康 37
- ◇ マナドの新風物詩 フィグラ祭 川井 雄二 40
- ◇ 家族主義について スカルとスハルト 川口 博康 41
- ◇ マナドに来て6ヵ月です。 喜多 和 42
- ◇ 肥満/肝炎 海外生活健康マニュアル 46
- ◇ 編集後記 日本人会編集部 47

在ウジュン・パンダン日本国総領事館 松田総領事殿 並びに
在インドネシア日本国大使館 川上特命全権大使殿 の北スラウェシご訪問

北スラウェシ日本人会会長 前田 良昭

去る2月19日、在ウジュン・パンダン日本国総領事館 松田総領事殿の北スラウェシ州ご訪問に続き、3月1日、在インドネシア日本国大使館 川上特命全権大使殿の北スラウェシ公式訪問に際し、私は案内役として同行いたしました。

松田総領事殿は、ミナハサ県トモホン郡に対する日本政府のスキームの一つである草の根無償資金協力によって実施が決定されました「タラ・タラ村小規模事業支援計画」の署名式にご臨席されました。同郡庁舎において「トモホン郡計画実施団体」「アミアンタ財団」代表者及び松田総領事が署名締結致しました。

ちなみに、同事業計画の概要は、POHON AREN/ENAU (サゴヤシの木) から取れるお酒 CAP TIKUS (ヤシ酒) を医療用のアルコールに精製するための機会設備の購入資金として無償資金協力されたものであります。

川上特命全権大使殿は、北スラウェシ州知事表敬訪問、北スラウェシ州警察本部長表敬訪問、経済協力プロジェクト視察、日本映画祭開会式御出席、元日本海軍軍人慰霊碑への献花及び各地を視察されました。

ちなみに、経済協力プロジェクト(ビトゥン港開発事業)の概要は、現在のビトゥン商業港の東側の国有地を利用して10万トン規模の大型貨物船の接岸可能な岸壁及びコンテナ・ターミナルの新設や最新設備の導入により荷揚げ、船積み作業等の円滑化を進めるという大規模なプロジェクトであります。

尚、現在JICAの専門家によりビトゥン港周辺の工事等による海上汚濁汚染等の調査が開始されております。

日系企業または現地企業の方々で海上汚濁汚染に関してご心配のある企業の方々はJICA専門官、山本様までご相談下さい。

(ジャカルタ) TEL&FAX: (021) 345-9947

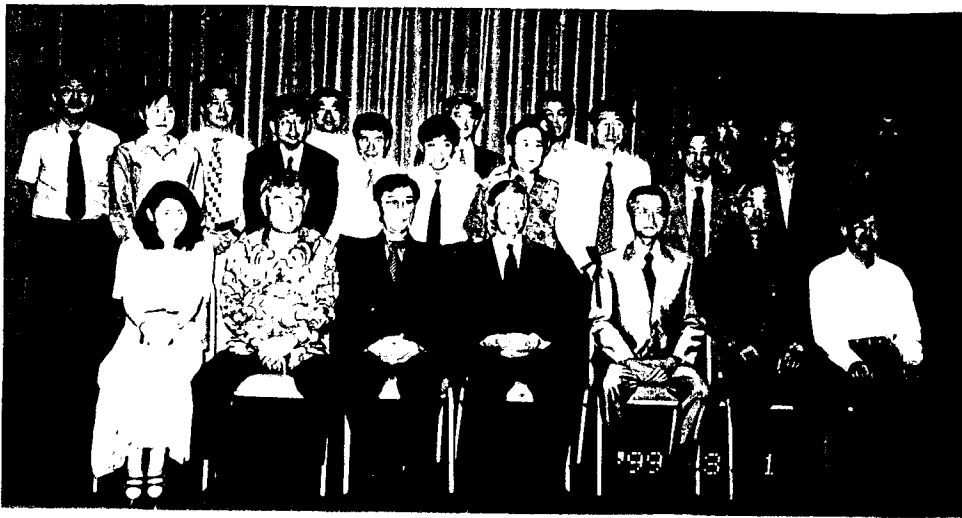
各地視察につきましては、トンダノ地区(トンダノ湖)、トモホン地区(旧日本軍防空壕)、アイルマディディ地区(サワガン遺跡公園-ミナハサ地方の石棺ワルガ)、アネンボ・ネンボ地区(旧日本海軍航空隊の慰霊碑への献花)、ビトゥン地区(ミニ動物園-タルシウス等見学)、プナケン地区(海洋自然公園)等をご視察されました。

川上特命全権大使殿のご招待により、北スラウェシ日本人会会員並びに在留邦人の方々との懇親夕食会がホテル・ノボテルにて開催されました。

席上、大使殿より日本人会に対して記念品としてゴルフ・カップを寄贈して頂きました。



1998年12月27日 忘年会 鹿島宿舎にて



1999年3月1日 川上大使との晩餐会 NOVOTELにて
前列中央が川上大使。 前列左端は広報・文化担当の二瓶三等書記官。



Gubernur Sulut E.E. Mangindaan, lagi berbincang-bincang dengan Dubes Jepang Takao Kawakami di ruang tamu Kantor Gubernur, beberapa waktu lalu.

1999年3月2日
E.E. Mangindaan 北スラウェシ州知事を
表敬訪問する川上大使

週刊紙『WARTA SULUT』から

同州知事は、去る2月、少将から
中将に栄進したばかり。

Selamat & Sukses

Atas Kenaian Pangkat Kepada :

Bapak E.E. Mangindaan, SE
Gubernur KDH Tkt. I Sulut

dari Mayor Jenderal TNI
menjadi Letnan Jenderal TNI



在インドネシア在留邦人安全対策懇談会

日時 : 1999年2月8日 15:00~17:30

場所 : 大使館会議室

出席者 :

○大使館関係者

服部 公使 (大使館)
柳谷 総括参事官 (大使館)
島崎 参事官・経済問題担当 (大使館)
牛島 書記官・治安問題担当 (大使館)
千葉 書記官・内政問題担当 (大使館)
窪田 総領事 (総領事館)
山口 領事 (総領事館)
佐々木泰幸 (㈱JSS危機管理コンサルティング事業本部長、
元警視庁公安部中国・東南アジア担当係長)

○ジョグジャカルタ日本人会 (会員数75名)

渡辺岳志 事務局長 (八千代エンジニアリング)
笹原克夫 書記 (JICA、建設省)

○バンドン日本人会 (同170名)

鈴木俊彦 会長 (三菱レイヨン)

○パレンバン日本人会 (同16名)

内野 馨 事務局長 (PT. ASIALOG)

○スマラン日本人会 (同81名)

清田政秋 事務局長 (クボタ)

○ランボン日本人会

塚本裕泰 事務局長 (旭光真珠)

○ソロ日本人会 (同17名)

松木 優 幹事 (PT. TURAI ADYAMAS)

○バリ日本人会 (同841名)

万亀子イスカンダル 名誉会長 (ラマツアー)

○南スラウェシ州日本人会 (同100名)

赤松史郎 会長 (JICA)

○北スラウェシ州日本人会 (同31名)

前田良昭 会長 (PT. KASUARI SANKO
TUNA PERSADA)

辻田武司 安全対策連絡協議会代表 (PT. HORIGUCHI
SINAR INSANI)

- アチェ特別州（日本人会未設立、在留邦人6名）
黒田良介 代表 （東洋エンジニアリング）
- スラバヤ日本人会（会員数700名）
鈴木実 代表 （スラバヤ日本人学校校長）
- バンジャルマシン日本人会（同40名）
入沢弘 事務長 （P.T. カリマンタンフィッシャー）

議事内容 司会進行：窪田総領事

1. あいさつ （服部公使）

昨年5月暴動時の緊急連絡体制や国外退避に関して、
在留届、記載事項変更届、帰国届の提出を確実に行っていただきたい等

2. 最近の政治・経済情勢

(1) 内政関連 （千葉書記官）

選挙に関する話題

特徴 選挙三法改正による大統領が恣意的に選出するDPR議席の減少
(例：国軍議席 70 → 38)

州レベル比例代表制から県レベルの小選挙区制へ

日程 3/1～4/5

候補者登録

選挙人登録（自ら登録する制度に変更）

5/18～6/6

選挙キャンペーン（20日間）

現実的には制限なく、すでに始まっている

6/7

投票日

6/8～6/26

県レベル発表（7/8宣誓式）

7/3～7/12

国会議員発表（7/25宣誓式）

11/10

正副大統領選出

(2) 治安関連 (牛島書記官)

犯罪増加率はかなり大きい

邦人対象の軽犯罪では未届けの事例が多い

(98年統計では報告があったのは、パスポート盗難4件のみ。現金盗難では恥を感じてか在外公館への届出がない。 → ぜひ報告していただきたい)
邦人対象の強盗事件も起こっている 防犯の心構えがより一層必要である
選挙に関連してトピックとなる日には注意がより必要である
前回の選挙にはあった投票日前の静粛期間が今回は無い。

(直前の盛り上がり暴動等に繋がる可能性を持つ)

大使館・領事館を通じて正確な情報を入手するようつとめていただきたい

(Eメールによる情報発信を準備中、できれば登録して欲しい)

緊急退避でインドネシア国外へ出た場合は、大使館・領事館への連絡が欲しい

(日本へ着いてから、外務省邦人保護課への連絡でもよい)

(3) 経済関連 (嶋崎参事官)

為替相場 選挙に関連して動向は予想不能

失業者数、インフレ率の更なる増加

3. 危機管理について (危機管理コンサルタント 佐々木氏)

4. 各地の情勢 (各地方邦人代表)

昨年5月暴動時の対応など

北スラウェシ州の場合

特徴 国外退避を余儀なくされるような事態は今のところ起こっていない
在留邦人は比較的少数で、単身者の割合が大きい

緊急連絡網はある(在留届を提出している邦人のみだが)

管轄在外公館である在ウジュンパンダン総領事館は遠方にある
緊急国外退避には、航空便によるものと船舶によるものがある
インターネット環境は充実しているとはいえない

問題 宗教紛争の可能性

緊急国外退避時のイミグレ、航空券、出国税他に関する諸問題
緊急時の空港までのアクセス

1999年2月12日作成 辻田

THE JAKARTA JAPAN CLUB FOUNDATION

1999年3月

ジャカルタ ジャパン クラブ
会員各位

ジャカルタ ジャパン クラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

最近の治安状況等のお知らせ

本協議会において、標記について、下記のとおりお知らせいたします。会員各位及びご家族並びに関係のご出張者等におかれましても、同様の被害に遭われないようご周知いただくと共に、十分ご注意ください。

JJC海外邦人安全対策連絡協議会は、TEL：3150418（担当：小野事務局長）、FAX：325902、在ジャカルタ総領事館の連絡先は、TEL：324308・325268。

記

1. 地方では、暴動の発生する可能性は引き続き極めて高い。3月5日付でインドネシアのマルク州アンボン島及びその周辺地域（ハルク島、サパルア島、セラム島）を「渡航延期勧告」（危険度3）としたが、現在のところ更なる引き上げは考えてはいない。これらの地域は、地元のキリスト教徒と他から移住してきたムスリムとの対立が続いてきたが、最近では、アンボンのキリスト教徒と治安部隊との衝突が起こっている。このため、宗教民族間の抗争等による暴動は、治安部隊等が派遣されているにもかかわらず、今のところ終息の見通しは立っていない。なお、その他の地域は、今までと同じ危険度である。

2. 暴動の懸念もさることながら、強盗、置き引き、旅券被害等一般犯罪に対しても、強い警戒が必要である。例えば、オフィスの応接間のテーブルの上に旅券等を置いてその場を離れている間に紛失した事件や、バッグを椅子に掛けて食事を取りに行っている間に盗難にあった事件、空港のX線チェックで持ち物を全部広げられ、チェック後財布の紛失に気が付いたが、周囲の状況から判断すると、空港関係者が犯人と思われる事件が発生している。また、ホテルでルームサービスを名乗る拳銃強盗事件も発生している。いずれにしても、チョットした油断が事件に繋がることを肝に銘じておくことが肝要である。一般犯罪に対しては、治安部隊は発砲も辞さない強硬姿勢でのぞんでいるが、現在のところ減少傾向にはない。

3. 3月4日に総選挙に参加できる政党の発表があり、全部で48政党である。この中には主要な政党（ゴルカル、開発連合党、闘争民主党、PAN、月星党、正義党、民族覚醒党）はもとより、現在総裁が逮捕されている民主国民党、ゴルカルから分派したMKKL、元国防治安大臣が総裁の正義統一党、旧国民党（PNI）の流れをくむ政党、元非公認労働組合が後ろ盾になっている政党もある。今後の選挙キャンペーンが非常に騒がしくなることが懸念される。総選挙を実施する機関である総選挙委員会（KPU）が設置され、総選挙実施のための細則や具体的ガイドライン等の今後の総選挙実施関係の一切を引き受けることとなる。メンバーは、政府代表5名、48政党の代表各1名からなり、かなり独立性の高いものになるのではないと思われる。いずれにしても、総選挙の大きな流れは、候補者の選定、選挙人名簿の登録等次のステップに進んでいくであろう。

THE JAKARTA JAPAN CLUB FOUNDATION

4. 総選挙の時期の危険な状況については、日増しに大きな懸念を呼んでいるが、他方、選挙参加政党等からは、どうにかしなければならないとの意見も出始めており、キャンペーンにある程度厳しいルールを設ける、旗を設置する場合は管理された形で出す等自制する動きも出てきている。今後の事態の推移を注意深く見守る必要がある。又、今後政党の集会等は頻繁に行われるようになる。かなりの人が集まり、若者がバスの上に乗ったりしている状況も見られることから、集会場所付近に近づかない方が良い。

5. 学生の動きについては、メダン、スラバヤ、スマラン等の主要都市でデモが開始されている。ジャカルタでは、3月4日に治安部隊との衝突により学生側に負傷者が出た。最近の学生の要求は、アンボン事件との絡みで軍の責任を追求するもの、ハビビ大統領の退陣を迫るものであり、スハルト前大統領の追求は幾分おさまってきている。

6. 労働運動については、例えば、バンドンで日系企業等にデモをかけ、地元の労働者の採用を要求して投石等を行う事件があった。なお、バンドンでは、キリスト教の集会場と学校がイスラム教徒に襲われる事件も発生している。

7. 経済情勢については、中央統計局発表、2月の物価上昇率は1.26%で、1月に比べ半減している。内訳は、生鮮食品2.32%、加工食品・飲料・タバコ1.94%、住宅0.98%、衣料関係0.91%、保健医療関係0.02%、運輸通信-0.5%、教育・娯楽・スポーツ0.3%、全体のインフレ率が1.96%である。ルピアレートは8,000台後半で安定した状態が続いている。2月27日予定の銀行再編プログラムが延期された。再編プログラムは自己資本比率によって3つのカテゴリーに分類し、自己資本比率が-25%に満たない銀行については閉鎖することとして、精査の作業が進められていた。延期の影響は、IMF理事会の開催時期が遅れる恐れがある。日本の支援としては、新宮沢構想の24億ドル支援の内、輸銀融資としてIMFとのパラレルローンがあるが、IMF理事会が遅ればこれにも影響が出てくる。円借款部分については、約800億円の円借を今年度分として近く供与すべくインドネシア政府と協議している。円借の内のソーシャルセーフティネットに係る世銀との協調融資は来年度以降になる見通しである。

8. 保険の支払い状況からみると、携帯電話、ゴルフバッグ、車のミラー、オイルや車そのものの盗難等細かな被害がかなり多い。また「暴動特約」をつけて当たり前といっても過言ではないという状況になっているとのことである。ところで、運転手や警備員が犯行を行う可能性もあるので、最初の人選に気をつけることと、内部犯行に対しては厳しい姿勢で臨むことが重要である。

9. ジャカルタ日本人学校では、4月からの編入学予定者26名を勘案すると、現時点では来年度の在籍者は643名～684名の見込みである。最近の特徴としては、在籍予定としていた家庭が本帰国となるケースが増えている。なお、私立、公立を問わず現地校が選挙前のかなりの期間休みとなるとのことなので、この点に係る対応を関係方面と協議することとしている。なお、ジャカルタジャパンクラブの個人部会員の動向を見ても、家族の帰国が多く、他方、新規入会者のほとんどは単身者である。

以上

北スラウェシの出身の国家英雄

川井 雄二

インドネシア共和国が『PAHLAWAN NASIONAL (国家英雄)』として指定した人物は現在97名いるが、その内、以下の5名が北スラウェシ出身である。

(主要参考文献:《ALBUM 97 PAHLAWAN NASIONAL》BAHTERA JAYA社 1996年第10版)



1. ラトゥランギ博士 (サム・ラトゥランギ) DR. GERUNGAN SAUL SAMUEL JACOB RATULANGI

1961年11月09日付大統領令〈1961年第590号〉

インドネシア独立時におけるスラウェシの巨頭。
『サム』という愛称で親しまれ、空港、大学、メイン・ストリート等にその名を残す。

1890年11月5日、トンダノ生まれ。オランダ語教育を受けトンダノの Hoofdscholl 卒業。1908年ジャカルタの技術学校 (KWS) 卒業後、Maos-Cilacap間の鉄道建設事業に従事する。この時期同胞に対するオランダ人の仕打ちに憤慨し、オランダ人に対抗するには彼らより高度の学問を身につけなければならないと留学を決意する。

オランダ、スイスに通算11年間留学。

1915年オランダ政府より中学数学教師の免状を授かる。

1919年にはチューリッヒ大学理学博士となる。

留学中、オランダでは『スティア・タナ・ヒンディア』(東インド国への忠誠)の議長となり、スイスではアジア留学生協会の会長となった。留学生の中にはインドのネルーや日本の東條英機がいた。当時オランダに留学中であった、R. A. Kartini の兄である Drs. Sosrokartonoとも親交を結んだ。

帰国後、ジョクジャカルタのAMS (高等中学校)で数学を教える。

その後、バンドゥンでインドネシア保険会社を設立する。

1924年~1927年、郷里マナドで民族主義運動に加わりミナハサ同盟の書記長 (後に議長)となる。農業問題や教育問題など民衆の利益のため闘う。

オランダ語週刊紙『民族評論』編集長として「植民地問題」に健筆を振る。

1927年~37年、植民地参議会 (Volksraad) 議員に任命される。

1932年、Vereniging Van Indonesische Academici (インドネシア学士協会)を設立。

この協会の主目的は民衆に対し民族意識を啓蒙することである。

1945年、インドネシア独立準備委員会のメンバーとして選ばれる。独立宣言後、初代スラウェシ州知事に任命される。その後オランダに逮捕され、イリアン・ジャヤの Serui に流刑された。1949年6月30日、ジャカルタで死去。遺体は故郷トンダノにて埋葬された。

【『インドネシア民族意識の形成』永積昭著 東京大学出版社 から一部抜粋】

このスティア・タナ・ヒンディアと東インド協会とはどういう関係にあったのだろうか。その初代議長がスラウェシのミナハサ族出身の数学者ラトゥランギであったことなどから考えて、中部ジャワ出身者が多く、また次第に政治的傾向を帯びつつあった東インド協会とは別の行き方を選ぼうとしたものの様である。ラトゥランギ自身が後年発表した論文によれば、「メンバーの中の欧亜混血児と原住民は反動的であった」とあるが、この「反動的」という単語は、恐らく「頑固」ぐらいに解釈しておかないと、ラトゥランギ自身の斬新的改革主義と、東インド協会に台頭し始める過激な政治的主張との関係が曇らされるおそれがある。

この団体がオランダ在住中国人に対してとった態度はきわめて示唆に富んでいる。

最初友情をこめて近づこうとする様子を示した中国人は、アムステルダムのスティア・タナ・ヒンディアが中国人を入会させないという決定をしたために、疎遠になった。つまり中国人を排除しようとする会員の態度を、ラトゥランギは「頑固」と称したのであった。



サム・ラトゥランギ記念塔(上)とその拡大部分(下)

サム・ラトゥランギ記念公園
(トンダノ市内)



サム・ラトゥランギの墓



サム・ラトゥランギの政治理論はスカルノに多大なる影響を与えた。

知名度こそ劣るが、サム・ラトゥランギはスカルノ、ハッタと並ぶ独立運動の英雄である。

